

がんばろう 南三陸町

復興第 13 号

南三陸マイタウン月刊情報

発行所

マイタウン企画

本吉郡南三陸町志津川字沼田 150-84
TEL (46) 3069

後援:

志津川広報センター

みんなでレッツ・ダンス!



2年生の演技にアンコール

伊里前小学校の学習発表会が10月27日(土)に体育館で開催され、会場には小学生の子供を持つ家族、祖父母が孫の晴姿を見に集まった。伊里前市街地などの地域浸水域や家屋流失で、仮設で暮らす皆さんもこの日を楽しみにしていた。

伊里前小学校の児童会スローガンは「笑顔で一生懸命! みんなに元気を!!」で、開会のことばでは今年入学の1年生21人が元気いっぱい、1年生から6年生までの学習発表会を紹介してくれた。体育館の入口では、先生が来場者を笑顔で迎えていた。

2番目では3年生19人の音読発表「手ぶくろを買いに」では、母ぎつねと子ぎつねの物語がスクリーンに映され、人里へ手袋を買いに行き、人間の優しさの子ぎつねは知るが、「本当に人間はいいものかしら」と母ぎつねは最後につぶやく。人に優しくする事の大切さを教えてくれた。3番目の2年生22人の表現合奏では、「奏でよう! 踊ろう! 輝ける2年生」の題目どおり、TRFのダンスミュージックに合わせて、ステージいっぱいに色とりどりの手袋をして、体全身を使ったパフォーマンスに、会場の皆さんから終わった後もアンコールの拍手がまき起こった。ここでは子供たちから町民の皆さんは元気をもらった。

4番目は、1年生「大きなかぶ」で、21人全員が一緒になってガンバってくれた。おじいさん1人では抜けない「大きなかぶ」をおばあさんと孫と、犬と猫とネズミが「うんとこしょ、どっこいしょ」と力を合わせ引き抜くという朗読劇。みんなで助けあえば何でもできるというお話しで、会場からは大きな笑いと拍手が起こった。

中間の兵藤校長先生の挨拶では、「命とふるさとを大切に」「南三陸町歌津の良さを子供たちに

知ってほしい」と話し、「141名の児童全員が頑張ってきた。1年生も6カ月ですいぶん成長した」と父兄に語った。

5番目の合唱では4年生の32人が、手話での歌に挑戦した。協力の手話サークル「波」の皆さんが児童の指導にあたった。「切手のないおくりもの」の歌に合わせて「わたしからあなたへ・・・」と手話で歌詞を表現した。子供たちは「むずかしかった」と話し、指導にあたった手話サークルの方々は「かかわれて良かった。一生懸命おぼえてくれました」と言う。ステージでの発表は、「お客さんにも、笑顔がみんなに元気をくれました。」と話してくれた



難しい手話にチャレンジ(4年生)

9番目の最後は6年生25名が、「閉会のことば」で最高学年として最後まで全力で頑張る事を発表した。歌津伊里前市街地の高台にある学校、子供たちの元気が明るい未来への一步を築いてくれた。そんな学習発表会でした。

9番目の最後は6年生25名が、「閉会のことば」で最高学年として最後まで全力で頑張る事を発表した。歌津伊里前市街地の高台にある学校、子供たちの元気が明るい未来への一步を築いてくれた。そんな学習発表会でした。

「歌中祭」

歌中精神を発揮!



歌津中少年防火クラブ(通常点検)

「歌中祭」が10月28日(日)9時から開催された。体育館には我が子の発表や、孫の演技を見ようと多くの家族が来場していた。

初めに文化祭実行委員長の菅原大地君が開会のあいさつを述べた。今年のテーマは『Smile Flower ～一人一人の笑顔が輝けるように～』で、「日頃、復興のために頑張っている地域の方々、生徒、先生が一人でも多く、花のような笑顔になってほしいとの願いを込めました」と話した。

発表では、英語暗唱に3年生の阿部友美さんと三浦和佳さんが立ち、弁論には「出会いをへて」と題して3年生の三浦玲花さんが「防火少年クラブに参加し、地域防災だけでなく自分を鍛え、仲間との絆が深まっ



た。」と言う。「自分を信じ行動する事で、新しい自分に出逢えるはずですよ。」と、体験を通して知る事ができたと発表。また、少年の主張に出場した2年生の及川大貴君は、学校からオーストラリア研修旅行の応募がありホームステイ先の家族との体験を発表した。「家族、幼い子供さんまでが私に気を使ってくれた。」そして「自分から挨拶をする。当たり前」の事の大切さを学び、自分を変えてくれた。」と。10日間の生活の中で学んだと生徒に話かけた。

次号に続く



軽可搬ポンプ応用操法



戸倉少年野球チーム

戸倉ブルーウェーブ

戸倉地区小学生の子供達14名の少年野球チーム戸倉ブルーウェーブの選手達です。12名の子供達の家庭は被災し仮設住宅の生活の中にあってもスポーツ活動を忘れることなく頑張っています。戸倉小学校自体が津波震災で壊滅し志津川小学校との併設校舎で通学も大変な中 わずかな練習時間しか取れない状況で、頑張っている戸倉ブルーウェーブの選手達にエールを贈ります。

投稿記事

こうした子供達のスポーツ活動に、被災した家庭であっても、他に劣らないような生活をおくらせようと、親御さん方の努力を感じます。しかしながら、被災地のこうした活動には町からの支援はあるものの、遠征試合など全ては家庭が負担しています。10年後20年後に社会人として活躍する、被災地の子供達の進学など、進路も震災の為に大きく影響する事の無いような支援制度が明確に欲しいものです。高台移転、住宅生活再建、地元産業復興とありますが、テレビニュース等は瓦礫処理のことばかり、順番が違うのではと思うのは私だけでしょうか。こうした子供達の将来をおざなりにした復興対策事業にも見える。

9月定例議会②

◆星喜美男氏

①住宅の自立
再建者への支援
環境を整えよ

②被災市町間で支援に差が生じないよう国に求めるべきだ

町長 ①高台移転せずに現地で住宅を再建、修繕される人は被災者生活再建支援金以外に補助制度はない。財源的に厳しいが、前向きに検討するとともに、必要に応じて国や県などに対して支援拡大や制度創設を働き掛けていく。②県内の沿岸被災5市町で連絡会議を立ち上げた。8月30日には村井知事とともに、自由度の高い独自財源の付与や、制度の弾力運用などを平野復興大臣らに要望した。自治体間で支援内容が異なることは好ましくないの、国、県に格差是正への対応を求めていく。



9月議会よりインターネット配信の画像

◆高橋兼次氏

①新公立志津川病院の経営方針は ②公営住宅は災害に強い工法導入を

町長 ①震災前、一般会計からの繰り出しは改革プランに基づき、運営費として2億5000万円。これに建設改良費、企業債償還金などを含めて毎年3～4億円を繰り出してきた。これまで同様、必要な財政繰り出しは行っていく。真に必要な医療と健全財政のバランスが大切だ。②耐震基準は、法律で震度5強程度ではほとんど損傷しないこと、震度6強と7で倒壊、崩壊しないことが基本。災害公営住宅もこの基準を満たす。すべて高台、内陸部での建設なので津波に対しては安全だ。洪水、土砂災害の危険がない場所が基本と考える。

◆鈴木春光氏

①国道45号と398号はどう整備されるか。高台移転を考慮したルート変更は ②町内小・中学校の統合・再編の考えは。

町長 ①両国道とも最大12mかさ上げし、再配置を考えている。去る6日の県都市計画審議会では、幅員を8m以上確保することで同意が得られた。398号は暫定的に原型ルートで復旧するが、

高台移転に伴う将来的な付け替えもあり得る。

教育長 ②戸倉小は戸倉中裏西側への新築で進めている。完成には4、5年かかる。名足小は現地復旧で設計中。25年度に工事を完了させる。志津川中と統合させる戸倉中は、保護者に戸惑いの声が多く、今後も丁寧に説明していく。

◆小山幸七氏

漁港、船揚げ場、岸壁の今後の復旧の見通しは。ばなな漁港の一部や津の宮、水戸辺などは入札があったが、このほかの港の見通しは。

町長 水揚げを最優先して復旧している。本年度は物揚げ場の復旧工事を、ばなな漁港、葦の浜、荒砥、津の宮、平磯、水戸辺の6漁港8地区ですべて着手した。10日に入札した田の浦、石浜、稲淵、館浜、寄木、滝浜、藤浜の7漁港の工事請負締結は追加提案する。

港、細浦、清水、長清水、寺浜、の5漁港は積算中で、来月中に入札したい。船揚げ場の復旧は、すべての物揚げ場を発注した後に速やかに発注できるように準備を進める。

9議員が質問に立ちました。 ※一般質問は順不同です。